

## □最近の活動状況

## 【2024年度通常総会】

—7月1日(月) ウェディングエルティ—

参加会員数 62名

2024年度通常総会が行われ、2023年度の事業報告、決算報告に続き今年度の事業計画、会費の改定、予算を審議し、いずれも原案通り可決しました。

また、任期満了に伴う役員改選について審議が行われ、北村代表幹事が退任し、再任で芳見代表幹事、新任で佐藤代表幹事が選任されました。

総会終了後、引き続き同会場においてポストンコン

サルティンググループ日本共同代表 秋池玲子 氏を講師にお招きし「最近の経営課題と組織の運営」と題し講演会を開催しました。

その後、会員懇親会を開き、初参加者とともに和やかな雰囲気の中親睦を深めることができました。(講演録は次号掲載予定です)

## 【第10回朝食勉強会】

—3月12日(火) クーラクーリアンテ・サンパレス—

講師 東北財務局 局長 田原 泰雅 氏

テーマ 東北地域の「今」と「これから」～経済、金融の視点から

参加会員数 46名

世界的には金融引き締めが進んでおり、中国をはじめとする海外経済には弱さが見られる一方、米国経済は強さを増しており、今後の展開次第で世界経済に影響を与える可能性があります。日本では緩やかな回復基調が続いているものの、足元では自動車メーカーの問題等が生じており、個人消費に足踏みが見られます。

東北地方の経済は緩やかに回復しつつあると判断しています。東北の経済構造の特徴としては、電子部品や自動車関連で強みがある一方、公共事業への依存度が高い傾向にあります。もう一つ大きい点は、生産年齢人口や年少人口の減少が先駆けて進んでいるため、個人消費と生産活動の弱さに繋がっているとみています。

福島県内の経済情勢は、中国向け輸出の鈍化などから生産面で弱い状況にあります。物価上昇が続く中で、賃上げを促進し、消費を下支えすることが重要な課題となっています。また、少子高齢化への対応として、子育て支援や女性の社会進出促進、高齢者の雇用促進などの取り組みが必要です。

物価高、海外の景気減速等のリスクを克服していくため、政府としては経済対策を実施しています。持続

可能な成長を実現していくため、①当面の物価高対策による所得の下支え、②賃上げ・所得向上の実現、③国内投資の促進・新規事業の創出、④人口減少に対応した社会変革と少子化対策等の取り組みを通じ、「コストカット型の経済」から脱却

し、持続的な経済の好循環を実現していく必要があると考えます。

力強く持続的な経済成長を実現し、財政健全化目標を達成していくためには、こども・子育て政策、デジタル/グリーン・トランスフォーメーションなどの成長に資する取り組みを財政面からも後押しするとともに、財政赤字の累増が経済成長を阻害しないよう、歳出・歳入両面の改革を進めていく必要があります。

持続的な経済成長に向け、金融機関による事業者支



講師 田原 泰雅 氏

援やスタートアップへの資金供給とともに、金融機関自身の持続可能なビジネスモデルの構築・リスク管理が重要です。家計の資産所得の向上に向けたつみたてNISAの普及など、金融経済教育を取り組んで行く必要もあります。家計の資産所得を拡大させるためには、

コーポレートガバナンスの改革、資産運用業の高度化、アセットオーナー（企業年金等）の機能発揮、顧客の立場に立ったアドバイザー育成など、インベストメントチェーンの機能を向上させることにより、資金の好循環を実現することが重要と考えます。（文責：事務局）

### 【第11回朝食勉強会】

—4月10日(水) ウェディングエルティ—

講師 JA福島中央会厚生連最高顧問、前全中副会長理事 菅野 孝志 氏

テーマ 私と協同組合～未来創造カンパニーとしての協同組合

参加会員数 41名

幼少期から農業に携わり、農作業の大変さや喜びを体験しました。近所の農家と協力し合う重要性や、機械化による作業の効率化なども学びました。

農業短期大学で協同組合について学び、卒業後、松川町農協に就職しました。若手農業者、職員と共にさまざまな取り組みを行い、組合員との信頼関係を築いてきました。管理課長や参事を歴任し経営改革やAコープ店舗の開設、新規事業、地域振興イベントなどに尽力しました。

福島市内の農協合併に携わり企画管理課長、共済部長、総務部長、常務、専務、組合長を務め、支店の再編や利用者指向のシステム構築、内部留保の積み増しなどに取り組みました。また、職員教育などを通じて農協の経営基盤を強化しました。さらに、地産地消の推進、東日本大震災後の復興支援活動、放射能汚染測定など、地域に根差した活動を行ってきました。近年は、子供たちに対し学校と連携した教育支援事業で農業体験や食体験・生け花教室を主催するなど、教育支援にも力を入れてきました。

食料・農業・農村基本計画の課題として、農産物価格の適正化、食料自給率の目標設定の不足や担い手確保の対策不足があります。また、スマート農業への過度な期待に対する懸念もあります。自然環境との調和や多様な農業が重要だと考えます。農業の未来に向けて、地域との対話や人材育成が必要不可欠です。具体的には、行政や地域住民との対話を通じた課題解決や、次世代の担い手育成のための取り組みを提案します。また、国民一人一人が農業の重要性を理解することも大切だと考えています。SDGsの理念に基づき、持続可能な農業と地域の共生を推進していきたいと思えます。（文責：事務局）



講師 菅野 孝志 氏

### 【第12回朝食勉強会】

—5月8日(水) ウェディングエルティ—

講師 福島大学 食農学類長 荒井 聡 氏

テーマ 集落を基礎とした地域農業のイノベーションと持続的発展

参加会員数 52名

2019年に福島大学に農学系の学部として食農学類が設立されました。現在は1学年当たり学部生100名、大学院生20名の定員で学生を受け入れています。食品科学、農業生産、生産環境、農業経営の4つのコー

スを設け、理論と実践の両面から教育を行っています。附属農場での実習や地域との連携を通じた実践的な教育を重視しています。卒業生の就職率は2年連続100%で、公務員や民間企業に幅広く就職しています。

東日本大震災の影響で福島県の農業産出額が大きく落ち込んでおり、特に浜通り地方の落ち込みが大きいです。米作を中心とした水田農業が主力ですが、需要の減少に伴い、新たな作物導入や高付加価値化が課題となっています。経営規模の拡大と効率化が進んでおり、20ヘクタール以上の大規模経営体の割合が増えています。しかし、福島県全体では大規模経営体の割合はまだ低い水準にあります。

集落を基礎とした営農組織が増加しており、福島県内でも会津地方を中心に広がりがつあります。会津若松市の湊地区、白河市、南相馬市などで、集落ぐるみの大規模な営農組織が誕生しています。富山県射水市の事例では、集落全体を1つの農場と位置づけ、作付計画や経営を一元化しています。集落営農は、農地の集積と効率的な利用、コスト削減、担い手確保などのメリットがあります。

スマート農業、先端技術の活用による省力化には大規模経営の推進が重要です。一方で、中山間地域などでは規模拡大に頼らない高付加価値型農業への取り組みも必要と考えています。担い手支援や直接支払い制度など、政策的な支援措置が不可欠であり、地域循環型のエネルギーモデルなど、持続可能な農業への転換が求められています。伝統を生かしつつ、技術革新を取り入れ、地域の実情に応じた農業のあり方を模索する必要があると考えています。 (文責：事務局)



講師 荒井 聡 氏

### 【第13回朝食勉強会】

—6月12日(水) ウェディングエルティ—

講 師 農業法人株式会社佐蔵農園 山口 小百合 氏

テーマ 農業から福島を考える

参加会員数 43名

私が佐蔵農園を始めたきっかけは、(株)フォーカスに入社後、地域創生のモデルケースとして取材をしていた島根県邑南町での学びが大きく影響しました。その頃、コロナ禍により会社の業績が低迷し、新しい事業を模索していたとき、休耕地の畑が使用できることとなり佐蔵農園を始めました。

農業を始めて感じたことが4つあります。①後継者・人手不足です。地域の農家の高齢化が進み、60代以上の高齢者が農作業を行っている一方で、30代の若手農家が少なく後継者不足が深刻な問題となっています。②気候変動による作物への影響です。近年、猛暑や豪雨など異常気象が増えており、作物の収穫量や品質に大きな影響を与えています。③農業の収益性の低下です。農作物の販売価格が低迷し、農家の収入が減少しています。高齢化による生産性の低下も収益性を圧迫する要因となっています。④農業は子どもの成長に欠かせないということです。土に触れることで感性が豊かになり、食育にもつながります。

企業が農業分野へ参入することで、資金力や経営ノウハウが注入され、課題解決につながる可能性がある

一方で、地域性や伝統文化が失われるのではないかと危惧しています。

当社は、農業を通して地域創生に取り組み、次世代へ生きる喜びを伝えたいと考えています。今後の具体的な展望として、1次産業の農業から6次化を経て、ブランディング構築後に飲食産業へ進出し、福祉事業の保育園と高齢者施設の複合施設の設立を目指しています。雇用を生みだし地域に活力を与えることができると考えています。また、高齢者と子どもの交流を通じて世代間の絆を深め、伝統文化の継承や食育の推進を図ることが期待できると思います。その「地域ならではの」と人を活かし、地域を元気にすることで持続可能な社会を目指して参ります。 (文責：事務局)



講師 山口 小百合 氏

## □今後の予定

- 【第16回朝食勉強会】日 時：2024年10月9日(水)  
 会 場：ウエディングエルティ  
 講 師：公益社団法人福島相双復興推進機構 専務理事 戸高 秀史 氏
- 【第47回経済同友会東北・北海道ブロック会議】  
 日 時：2024年10月17日(木)  
 会 場：ホテル青森
- 【第17回朝食勉強会】日 時：2024年11月20日(水)  
 会 場：ウエディングエルティ  
 講 師：浅野燃糸株式会社 代表取締役社長 浅野 雅己 氏
- 【2025年新年懇談会】(詳細決まり次第ご案内申し上げます)  
 日 時：2025年1月29日(水)  
 会 場：ウエディングエルティ  
 講 師：一般社団法人東北観光推進機構 理事長 紺野 純一 氏

## □事務局だより

- 2024年の「要覧・会員名簿」が発行になりました。  
 ○2024年5月から7月に入会・変更のありました会員を紹介します。(敬称略)

新規入会		2024年6月入会 むらおか たかふみ 村岡 孝征 菅野建設(株) 常務取締役		2024年6月入会 あんざい やすし 安齋 康史 (株)福島民報社 常務取締役
	会員交代		2024年5月交代 こばやし しん 小林 晋 SMBC日興証券(株) 福島支店長	
			2024年6月交代 よこやま きいち 横山 貴一 (株)ラジオ福島 代表取締役社長	

引続き会員増強にご協力をお願い申し上げます。(2024年9月6日現在 会員数103名)

## 編集日誌

- ◇連日のメダルラッシュに沸いたパリオリンピック、パラリンピックが終わりました。今大会から新種目として追加された「ブレイキン」や、パラリンピックならではの魅力的な競技もたくさんあり、寝不足の日々が続いた方も多かったと思います。
- ◇体操男子団体で、ミスが出たあと「絶対に諦めないぞ」「つないでいこう」と声を掛け合い、チーム力でつかんだ金メダルの瞬間は観ていて鳥肌が立ちました。車いすテニスでは、マッチポイントまで追い込まれてからの猛チャージで金メダルに輝いた小田選手が、試合直後のインタビューで「金メダルを取るために生まれてきた」との言葉に涙が溢れました。
- ◇数々の名場面が生まれた今大会。勝利を信じ、最後まで諦めない姿に何度も胸が熱くなりました。出場された選手の皆さん、感動をありがとうございました。(今野)